

今月の御教え

神は声もなく、形も見えない。疑えば限りがない。疑えよ。疑いを去れ。

……「天地は語る」 第十二条……

解説

この御教えは教祖直信の高徳の師、佐藤範雄先生が、教祖様の御教を要約し書き留めた『神訓』の中の一節であります。師にとっては、教祖様の信仰される天地の親神様の存在は尊く疑いなきものであります。その親神様を疑って信じ切れない人がいることが、何ともじれったく、残念で堪らなかつたのだと思います。そこで「一度なりとも、疑いを離れて虚心に教祖の御理解を頂いてみなさい、さすればこの大いなる神様の存在が必ず分かるから」と、一念を以て表された御教えであると思われれます。教祖様は「疑いを放れて広き真の大道を開きみよ。わが身は神徳の中に生かされてあり」と教えられています。

今年に立教百六十年に加えて当教会二代教会長・高橋光輝大人三十年、夫人・辰子姫十五年の栄えある御年柄であります。私達信奉者は、改めてこれらの御教えを頂きなおし、一層信心の稽古に励み、教祖様のお示しなされた天地の道理を、しっかりと感得させて頂きたいものであります。